

春-4 心のこもった贈り物

1. 活動の目的

- ① プレゼントをあげたりもらったりした経験を話したり聞いたりし、気持ちを共有する。
- ② プレゼントをあげる際の思いを表現する。相談しながら、感謝の気持ちを伝える計画を立てる。
- ③ それぞれの文化における贈答の習慣について情報交換し、相互理解を深める。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆肩たたき券

☆のし紙、のし袋のサンプル

- ・メッセージカード (A4の紙を1/4にカットして人数分作成する)

3. 活動の手順 **留**: 留意点 **参**: 参考 **発**: 発展的活動

活動1

- ・プレゼントに関する体験を話す。必要なら「あげる」「もらう」「くれる」確認。
- ・もらったプレゼントだけでなく、あげたプレゼントについても話してもらってもよい。準備しているときの気持ちなども話題にできる。
- ・プレゼントは、物に限らず、手紙やカード、言葉、旅行、パーティーなども含めるとよい。
- ・サプライズでもらって嬉しかったプレゼントや、意味が分からず困ったプレゼント、習慣の違いによるびっくりなどの経験があれば、話す。また、プレゼントしたいが習慣がわからず困ったり失敗した経験があれば、話す。
例) どうしてももらったかわからず困惑した、不相応に高価で困った、返し方がわからない、プレゼントをあげた時その場で開けてくれなかった (または開けられた) など

肩たたき券

- 参** 導入文の「肩たたき券」について質問が出れば、子どもから親へのプレゼントとして日本では誰もが知っていることを紹介する。お金がかからないこと、肩をたたいてもらおうと気持ちがいいことなど。

活動2

メッセージ
カード

- ・潘さんの例を読む。潘さんが大家さんへのお礼の品をあげるにあたり、値段設定、どんなものが最適か、どうやって準備するか、どんなメッセージを添えるか、などをグループで話し合う。
- ・まず、予算を設定する。話し合っ決めて決める。決められないようならボランティアがその場で決めて提示してもよい。
- ・グループ全体で話し合ってもいいし、2~3人に分かれて話し合ってから発表し合ってもよい。メッセージについても同様。ボランティアも加わるが、学習者の発話やアイデアを大事にするよう心掛ける。
- ・メッセージカードをデザインしてメッセージを書く。スタイルは自由だが日本語で書くこと。絵を描いてもいい。下書きをするのもいい。一人一枚それぞれにメッセージカードを書き、見せ合う。

活動3

のし紙
のし袋

発 よくできるグループでは、誰かが大家さん役になり、ほかのメンバーが、好きなものなどをインタビューしてプレゼントを決める、という設定にするのもよい。どんなことをインタビューするかグループで話し合っ決めて決めるようにする。

- ・日本や自国の贈答の社会的習慣について話す。ここではのしを付けて贈るような場合について記してある。学習者にのし紙・のし袋のサンプルを見せて紹介する。

留 テキストに記載されているお祝い等の説明に時間を費やさないよう気をつける。

*中元・歳暮：中元は6～7月、歳暮は11～12月に、お世話になった人に贈り物をする習慣。親族、会社同士、伝統芸能(お茶やお花)を習っている場合にはその先生、などに贈る。その時期になるとデパートなどに専門のコーナーが作られ、客で賑わう。

参 ほかに、いろいろな贈答習慣がある。例) 成人のお祝い、合格祝い、など

発 よくできる学習者には、のしの種類や書き方、店での頼み方なども紹介するとよい。

参 のしを付ける場合、メッセージカードはつけない。

参 お返しについて

- ・結婚祝い、出産祝いなど、お祝いに対するお返しは、だいたい半額くらいを目安にする。半返しという。
- ・結婚祝いや出産祝いのお返し＝内祝い お見舞いのお返し＝快気祝い とする。
- ・お祝いののし袋に入れるお金は新札の方がいい。

- ・あげてはいけないものについて、その理由を考えてみる。
- ・スーパーや花屋で売っている、小さい花束になっている小菊は、お供え用であることを伝える。プレゼントにしたり部屋に飾るには不適である。きれいに盛られたフルーツもお供え用である場合があるので注意。